

# 北九州産業労働研究會

ニユース 第一號

## 北九州産業労働研究會生る

### 社會運動往來社長小林五郎氏を迎へて!!

## 奮起せよ八幡健兒

非常時日本の現情に直面して、眞に愛國の精神を披瀝し國民舉つて國難打開への重大時機に當つて、建國の本義を基調とする然も國家的信念の下に全勤勞大衆をして、正しき労働組合の軌道へ結合せしめんとする即ち日本主義労働運動の發展を通じて、北九州の主要工、鑛業一齊に勞資融合の理想郷を現出して祖國の爲めに奮起精勵せんとする、その眞剣なる努力機關として吾八幡に北九州産業労働研究會の設立を見たるは實に吾國史上に特筆すべきの上もなき慶賀に堪へざる所である。

日本國民の總意に依つて國際聯盟脱退は敢行された今や世界の動向を見るに吾日本の現状は一日たり共安閑として居る場合でない。

更に國內に於ても然り、政治、經濟、教育、諸般に亘りて會機構は一大破綻を生じ且つ其の不統一を暴露しつゝあるが

この刻下の非常時、所謂國難打開こそ眞に全勤勞大衆の自らの力ではなくてはならぬ。

日本産業の源泉地たる八幡に於て、今回力強く設立せられた、北九州産業労働研究會を吾等の鐵腕に依つてシツカリ支へ、其の發展を擴大を期しなればならぬ。

然して眞に勞資融合の理想郷を實現せしめ益々國家産業の興隆を期し、國力の増進と、吾等日本労働者の安定幸福の爲めに一路邁進しなればならぬ。

昭和九年十一月四日の夕刻五日の朝にかけて、八幡製鐵所の各通用門に於て、全三萬の従業員に向つて一齊に呼び掛けるべく次の如きピラが撒かれ、八幡健兒の眠りを醒すべき曉の鐘が打ち鳴らされ

北九州産業労働研究會設立趣意書

今日の如き國際情勢、將又、今日の如き社會情勢の眞に容易ならざる重大性に就ては、今更喋々を要せざる所であり

即ち、資本家事業主と、労働者も共に利己心を捨て、相協力して産業を守り、業績を擧げ以て祖國に奉仕する事が、日本國民として第一の任務でなければなりません。

同時に其處にこそ、我々日本労働者の根本精神の第一義「道義に基く公正なる勞資關係の確立」でなければならぬ

我々の運動は、自ら率先して日本労働者たるの本分を盡し、其の迫力を以て事業主をして覺醒せしめ、其處に播きなす勞資融合の理想郷を現出して、祖國の爲めに奮起精勵するところをしなければならぬのであります。

その心臓部とも云ふべき八幡製鐵所従業員たる我々にして省みて、果して今日の如き状態で、前述の如き大覺悟が出来て居ると云へるでありませうか。

運動の火蓋が切られ、昔平家が壇の浦に滅びたるに等しく、今や没落の深淵に臨んで往々に戦慄しつゝあるものであります。かくの如きは多年労働者の膏血を吸つて来たところの日本労働組合會議一派の職業労働者に對して天が下したる淨化の爆彈であつたのであります。

吾々の久しく待望して止まなかつた北九州産業労働研究會は、愛國心に燃ゆる親愛なる製鐵所従業員並に各方面の有志諸賢に依つて、昭和九年十一月六日大谷會館に於て、盛大に設立せられたるに當り、不肖私を庶務掛と云ふ重責に滿ち

北九州に於ける組合會議派第一の指導者某君(特に名を秘す)の如きは、つい先頃、或る重要な公開の席上に於て、彼の赤色革命の流

方にて我々労働者の利己心を煽動し、然も其の反面に於て資本家・事業主と特殊取引を行ふを常習とし職業として來りたる何等事業と關係なき市井の職業運動者である

我々製鐵所従業員は、製鐵所永遠の平和と我々従業員の幸福とを思ふ時、斷々乎として、かゝる一切の職業労働者の指導を脱しなればならぬのであります。

日本労働組合會議の議長長濱田國太郎君の如きは、典型的の職業運動者であつて、自ら組合たる日本海員組合を占據し其の一味と共に多年、労働馬鹿民族とも云ふべき醜態暴狀の限りを盡して來たのであります。而して諸君も新聞紙上等にて御承知の如く遂に今より四ヶ月前、同組合

運動に我々の實踐の據りどころを置き、自らの正義の實踐を通じて製鐵所主腦部の協力を求め、先づ製鐵所内に眞に勞資

原田 國定